

**三陸の海を放射能から守る
岩手の会**

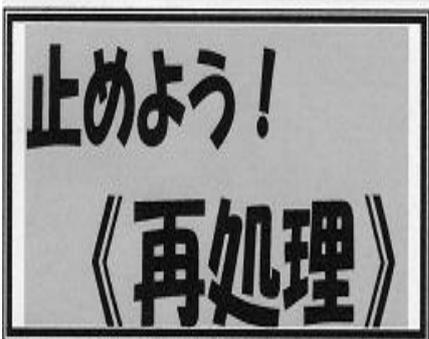
(略称) 三陸の海・岩手の会

郵便振替 02240-5-102650

ホームページ 《再処理/岩手の環境》

http://sanriku.my.coocan.jp/

《本紙の全バックナンバー掲載》



《天恵の海》

2014(平成26)年

7月21日

第144号

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

**再稼働反対！全国と連帯する
さようなら原発 岩手集会 2014**

原発稼働ゼロから廃炉へ！



盛岡市内デモ

原発再稼働に反対する「さようなら原発」岩手集会在七月五日、岩手教育会館大ホールに約四〇〇人を集めて開催されました。集会では作家広瀬隆さんの基調講演がなされ、福島県二本松市の松本徹也さんと実行委員との対談が行われました。また、「川内原発建設反対連絡協議会」と「福井から原発を止める裁判の会」からメッセージが届き読み上げられました。集会后、参加者は「再稼働反対！」を訴え盛岡市内をデモ行進しました。実行委員会には消費者団体や市民グループ、労働者団体、学識者など三四団体が結集しました。原発のない、安全な日本を願う全ての人々が参加できる創意あふれる運動が期待されます。



集会参会者



福島県民の声を聞く

**あぶない！
川内原発再稼働**



作家 広瀬隆氏

**基調報告
原発の再稼働
許されないこれだけの理由**

三・一一の前身の二〇一〇年八月、『原子炉時限爆弾―大地震におびえる日本列島』を著し、地震や津波による原発震災を予告し警鐘を鳴らした作家広瀬隆さんの基調講演は、豊富なスライド資料による、具体的でわかりやすい内容でした。多岐な内容のうち、全国民に緊急に知らせねばならない重要な情報数件をお知らせします。

活火山が連なる鹿児島薩摩川内(せんだい)市にある川内原発一号機は三〇年、二号機は二九年の古い原発です。こともあろうに、九州電力と鹿児島県伊藤祐一郎知事は、原発再稼働の一歩乗りを宣言し、稼働を目指し始めました。

二〇〇九年から桜島は毎年噴火が連続し危険な兆候を見せています。百年前の大正三年、桜島は大噴火し、マグニチュード七・一の大地震が起こりました。九州南部は六つのカルデラ(火山陥没・爆発凹型大地形)が連なる火山地帯です。

東日本大震災の直前・・・
2011年1月26日、鹿児島・霧島山の新燃岳で大噴火が始まり、夜には火口から2000メートルまで噴煙が達し、以後も大噴火が続いた。



霧島新燃岳爆発



6つのカルデラ、火砕流の恐れ

鹿児島県で原発事故が起これば日本全滅

福島原発事故はチェルノブイリ事故に匹敵する事故で大量の放射能が放出され、街も農地も海も汚染されました。

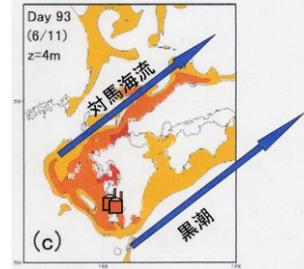
*昨年八月、広瀬さんらが福島原発被害現地に入り「ゴーストタウン」となっている様子を撮影、スライドで映し説明しました。

(本紙第一三二号参照)

しかし、福島並みの原発事故が九州で起これば事態はもっとも、もっと深刻です。台風は進路が示すように、偏西風帯にある日本では放射能を帯びた大気が列島に沿って移動し、居住地や大地を汚染します。海洋に流れ出た放射能廃液は黒潮や対馬暖流に乗って、ほぼ列島沿岸を襲います。日本の農業も漁業も放射能で壊滅的打撃を受け、食料危機が起こります。



放射能雲と台風の動き



放射能廃液と海流の方向

地震や火山爆発に原発は弱い

稼働させれば原発は、たとえ制御棒を入れても、核分裂をストップ出来ても、例えば「電気コタツ数万個分」もの崩壊熱と、すさまじい放射線を出し続けます。地震で高圧線が倒れたり、非常用発電機のエンジンオイルターが火山灰で目詰まりするかもしれない。全電源を喪失すれば原子炉は制御不能、メルトダウンに至ります。

福島第一原発に外部電源を供給する夜の森2号線第27号鉄塔の倒壊現場



倒壊した鉄塔 福島民友 2012年2月21日

大地震が発生すれば、直後「巨大震動に襲われる可能性が高く、制御棒を挿入できなくなる。」

川内原発のそばに活断層

薩摩川内市付近は一九九七年三月と五月に震度5〜6の大地震に襲われました。原発からわずか数十キロが震源でした。しかし、奇妙なことに九州電力は現在でも原発近くに活断層はないといっています。川内原発は日本中央構造線という世界的にも最大級の活断層の西端にあるのによです。



中央構造線

原子炉から八百メートル活断層発見

今年二月、新潟大学地質学立石雅昭名誉教授は川内原発の至近距離の崖で活断層とみられる三本の断層と破碎帯を発見しました。広瀬さんが、薩摩川内市での集



川内原発近くの活断層。半分にシート

会のおり行ってみたら、半分シートで覆われ隠されていましたが、断層は確認出来ました。

「稼働ゼロ」のまま廃炉にすれば未来が開ける

安倍晋三内閣は「大事故が起これば、住民避難について政府は関知しない。地元自治体が判断すべき」と明言。これでは地元住民の命と生活は風前の灯火。日本列島住民の命と暮らしを守るために、《原発稼働ゼロ》は絶対に守りぬこう。(まとめ・尚)

ウエブ「広瀬隆 日々雑感」
http://hibi-zakkan.net/archives/3854425.html
講演スライド資料あります。

女川から未来を考えると
加藤登紀子トーク&ライブwith小出裕章
2014年8月10日(日)
13:30 開場 14:00 小出裕章講演会
15:00 地元のみなさんのリレートーク
16:00 加藤登紀子ライブ
女川町総合体育館 チケット1000円
実行委員会 問い合わせ 090-1107-6894
chibinke-aramiki@s5.dion.ne.jp

原発稼働ゼロの日7月で365日

「鯉のぼり大作戦」から「海の日」へ
2012年5月5日 2014年7月21日

全日ゼロ日数	計算
2012. 5	26 日間
6	30
2013. 9	15
10	31
11	30
12	31
2014. 1	31
2	28
3	31
4	30
5	31
6	30
7	21
	(365日)

2012年 5月5日 11:03 pm
唯一稼働中の北海道 泊原発停止
7月1日夜 福井県 大飯原発再稼働
2013年 9月15日 11:00 pm
大飯原発停止 再び原発稼働ゼロへ
2014年 7月21日 365日目

▲事故原発収束せず、汚染拡大中。▲プール冷却中の使用済み核燃料が全国で約1万7000ト。▲再処理工場タンクに高レベル放射性廃液

《稼働ゼロ：365日目》の現実を見よ！

○日本の電気は足りている。 ○超危険な臨界状態にある原発はない
○新たな使用済み核燃料が生まれていない。 ○使用済み核燃料の放射能が少しずつであるが、減衰へ、崩壊熱も下降へ ○なによりも海への温排水が流されなくなったので、沿岸生態系が昔に戻り始めた！

